

## 2 教育研究組織

### 1 . 教育研究組織

#### 【現状説明】

本学の沿革および教育研究組織はp.14の図表2 - 1「設置学部・学科・大学院研究科等一覧表」、p.15 図表2 - 2「教育研究組織表」のとおりである。

4学科(英文学科、国際関係学科、数学科、情報科学科)は独自のカリキュラムを持ちながら、カリキュラムの相互乗り入れ、教員、学生の交流を図っている。カリキュラムの相互乗り入れについては、たとえば英語教育について英文学科が、英語以外の外国語教育について国際関係学科が中心となって全学のためのカリキュラムを編成し、情報教育については情報科学科が同じく責任をもってあたっていることや、各学科とも他学科の開講科目を卒業に必要な単位として履修できることなどがあげられる。創立者津田梅子は開校式の式辞に続いて次のように語っている。「専門の学問を学びますと、とかく考えが狭くなるような傾きがあります。(略)英語を専門に研究しようと努力するにつけても、完き婦人となるに必要なことがらをおろそかにしてはなりません。円満な婦人、すなわちall-round womenとなるよう心掛けねばなりません。」学生が所属学科の授業だけでなく、他学科の授業をも履修できることは、専門分野以外の学びができ、視野が広がることであり、創設者が目指したall-round womenの育成につながることを確信している。

2004年度まで3学科の学生に保健体育科目を提供してきた保健体育教室は2005年度に国際関係学科へ統合されたが、全学を対象にウェルネス関連の授業を提供している。このウェルネス関連の授業もまた、先に述べたall-round womenの育成につながっている。また、教育職員免許状取得のための教職課程、日本語を母語としない外国人等への日本語教育の教員養成を目的とした日本語教員養成課程が置かれている。

大学院には3研究科(文学研究科、国際関係学研究科、理学研究科)3専攻(英文学専攻、国際関係論専攻、数学専攻)があり、それぞれに修士課程と後期博士課程が設置されている。文学研究科、理学研究科は複数の他大学院と単位互換協定を結んでいる。

研究所は言語文化研究所、国際関係研究所、数学・計算機科学研究所の3つがある。研究所間における教員の交流も行われている。

教育・研究をサポートする機関として図書館に加え、視聴覚センター、計算センター、オープン・リサーチ・センター、津田イングリッシュ・コーディネーション・センターがあり、学生・教職員へのサービス機関として、ウェルネス・センター、国際センターがある。視聴覚センターは、学生の語学学習におけるSpeaking、Listening能力の強化をサポートするほか、教員の視聴覚教材の製作支援などを行なっている。計算センターは学内のコンピュータ環境の整備を図り、教育・研究及び大学運営のためのコンピュータ利用をバックアップしている。オープン・リサーチ・センターは、文部科学省の「私立大学オープン・リサーチ・センター整備事業」の支援を受けて発足した。分散教育システム・リサーチ・センターは文部科学省ハイテク・リサーチ・センター推進事業の支援を受け、高度情報通信環境における教育システムの開発研究を

行なってきたが、2005年3月にその役割を終了した。2006年には、「津田塾大学イングリッシュ・コーディネーション・センター(Tsuda English Coordination Center)、以下「TECC」という」が開設され、本学の英語教育の改善・充実・強化のための英語プログラムの企画・運営を担っている。ウェルネス・センターは学生、教職員が心身ともに健康で充実した生活が送れるように、健康教育をはじめ、各人のウェルネス増進のためのさまざまなプログラムを提供しており、国際センターは、学生の留学や国際交流をサポートする機関として2001年度に設置された。

学芸学部の4学科が基礎となり、上記の大学院3研究科、3研究所、図書館、各センターは有機的に連動している。すなわち、英文学科は大学院文学研究科、言語文化研究所、視聴覚センター、TECCと、国際関係学科は大学院国際関係学研究科、国際関係研究所、オープン・リサーチ・センターと、また数学科、情報科学科は大学院理学研究科、数学・計算機科学研究所、計算センターとそれぞれ密接な関係にある。また、ウェルネス・センターは、図書館、視聴覚センター、計算センターとともに学生、教職員に対し、全学的にサービスを提供している。

#### 【点検・評価】

小規模大学の限られた人的・物的資源を最大限に利用し、教育・研究の組織が有機的に連動しているといえる。本学の中で学部から大学院に進学し、大学院修了後には研究所で研究員として研究を続けることは一貫性という点では評価できる。さらに講演会、懇談会、プロジェクト等を通して他の大学、大学院および研究機関との交流の場を積極的に提供している。

大学志願者の志向が多様化する中で、現在の学科構成でどこまで学生のニーズに応えられているのか、あるいはいつまで、これだけの学生を集めることができるのかの検討が続けられ、2006年度には情報数理科学科が2学科へ改組され、数学科と情報科学科となった。さらに英文学科に副専攻（翻訳・通訳コース）が開設され、学際分野の専攻として「メディアスタディズ・コース」が新設されたが、今後もこれらの取り組みをどのような形で発展させるか、など、更なる検討の必要性が残る。

#### 【改善方策】

以上の評価に基づき、学科再編成も視野に入れた全学将来構想委員会での検討を続けている。

全学将来構想委員会で検討に挙げたものをまとめると、次のようなものがある。

- ・多文化・国際協力コースの強化・拡充
- ・メディアスタディズ・コースのさらなる発展
- ・全学の英語教育に関するもの
- ・学科再編に関する分割・統合・再構築などあらゆるパターンの検討
- ・国際交流の拡充
- ・現職の英語教員を対象とする大学院のコースの提案
- ・千駄ヶ谷キャンパスを活用した教育活動

この中からは、検討の後、2010年度から千駄ヶ谷キャンパスで開設する大学院文学研究科修士課程の英語教育研究コース（現職英語教員対象）などが実現している。さらに、既存の学科、コースなどの改善を検討し続けている。

図表2 - 1 設置学部・学科・大学院研究科等一覧表

名称	設置認可年月日	所在地
学芸学部		
英文学科	1948年3月25日 * 1	東京都小平市津田町2 - 1 - 1
国際関係学科	1969年1月6日	〃
数学科 * 2	1949年2月21日	〃
情報科学科 * 3	2006年4月1日	〃
大学院		
文学研究科英文学専攻		
修士課程	1963年3月29日	〃
後期博士課程	1965年3月27日	〃
国際関係学研究科国際関係論専攻		
修士課程	1974年3月28日	〃
後期博士課程	1976年3月25日	〃
理学研究科数学専攻		
修士課程	1963年3月29日	〃
後期博士課程	1972年3月30日	〃
言語文化研究所	1960年1月	〃
国際関係研究所	1975年7月	〃
数学・計算機科学研究所	1988年4月	〃

\* 1 1948年3月25日から1949年2月20日までは英文学部

\* 2 1996年4月に情報数理科学科に改称し、2006年4月から数学科、情報科学科へ改組

\* 3 2006年4月から数学科、情報科学科へ改組

図表2-2 教育研究組織表

